

尼崎市子ども・子育て審議会
第7回計画策定部会 議事録

開催日時	平成28年3月1日(火) 午後6時30分～午後8時30分
開催場所	尼崎市立すこやかプラザ 多目的ホールA室
出席委員	勝木委員、瀧川委員、橋本委員、伊藤委員、大堀委員、梅林委員、杉原委員、高谷委員、森本委員、山田委員、後藤委員、迫委員
議題	(1) 新たな尼崎市次世代育成支援対策推進行動計画の策定に係る最終答申(案)について (2) その他
資料	・資料1 次世代計画(素案)に係る市民説明会開催結果並びに市民意見公募手続の意見集約状況(速報)について ・資料2 新たな次世代計画【中間答申】からの追記・修正等について ・資料3 尼崎市次世代育成支援対策推進行動計画【最終答申案】

開会

配付資料の確認

1 新たな尼崎市次世代育成支援対策推進行動計画の策定に係る最終答申(案)について

資料1・資料2・資料3に基づき、説明

(部会長)

それでは、ただいまの説明についてご意見やご質問はございますか。パブリックコメントの件数が少なかったのは残念ですね。それから市民説明会も開催されたわけですが、合計5人の参加だったようです。夜の時間帯にも開催されたのですが、皆さんあまり興味がなかったのでしょうか。この市民説明会は、どなたが説明されたのですか。

(事務局)

事務局です。先ほど部会長からもありましたように、パブリックコメントの期間中に各行政区で開催し、時間帯も平日の午前・午後、休日の日中に合計7回実施しました。平日は夜の時間帯にも開催しましたが、この結果でございました。

(部会長)

市民説明会に来られた方への手ごたえはどうでしたか。不安に思っていたらっしゃることとかございましたか。

(事務局)

基本的には計画内容の説明でしたので、参加された方のご意見はパブリックコメントとしてのご意見とよく似たものでした。市で様々な取組みをしているものの、思っているほど周知されていないという印象を持たれている方や、特に携帯電話についてなのですが、一昔前なら自分の子どもに携帯を持たせるか持たせないかだったのに、これだけ急速に普及してくると、持つ持たないの議論ではなく、持っている前提でどうしないといけないかを保護者として考えないといけないとおっしゃられている方もおられました。高校生くらいになれば、ある程度は使い方の分別もつくでしょうが、小中学生くらいまでは家でルールを定める必要がありますよねというご意見でした。

(部会長)

ありがとうございます。委員の皆様、何かご質問やご意見はございませんか。なんでも結構で

す。

(委員)

説明会を開催していただく事務局は大変だと思うのですが、私は働く母として、この日程を見た時に各行政区 1 日だけの日程だと、この日が都合が悪いともう参加できないということになります。可能であれば、もう少し夜の時間帯で何日が開催していただけたら参加可能だった方ももしかしたらいらっしゃるのかもしれないと思いました。

(部会長)

パブリックコメントの募集については、インターネット上でも案内があったわけですね。

(事務局)

ご意見のある方は市役所にご持参いただくか、FAX や電子メールで送っていただくという形です。パブリックコメントのルール上、口頭での受け付けはしていませんので、何か書面で残るものであれば方法は問わないというものです。

(部会長)

他の計画等で、パブリックコメントは 20 日程度の期間を取るようになってはいますが、市民説明会の開催はどれくらいの期間でしょうか。

(事務局)

そもそも、全ての計画で市民説明会をしている訳ではありません。私の記憶の範囲では、特に市民の皆様直接的に重大な影響を及ぼすもの、例えば市バスの特別乗車証の負担額改定といったご負担をお願いするもの等については、過去に市民説明会を実施していたと思います。一方で、子ども・子育て支援新制度についてですが、移行に関する事業者の方への説明会は実施されましたものの、子ども・子育て支援事業計画を策定するにあたっての市民説明会は実施しておりませんので、今回が初めてです。前回の次世代育成支援対策推進行動計画の策定時も実施ありません。

(部会長)

ありがとうございます。パブリックコメントと市民説明会の話が混同してしまい申し訳ありませんでした。ご質問やご意見はありませんか。

(委員)

今回、新しい取組みでチラシを配布・設置されたということですが、そのチラシは何枚くらい手に取ってもらえたのでしょうか。

(事務局)

手に取ってもらうというよりは、掲出用のポスターに近いものですので、施設に掲示しました。対象施設は公立・私立の幼稚園・保育所(園)や、PTA に関しては全学校の役員の方に 1 枚ずつに配布し、そこで活用いただくこととしました。また、パブリックコメントを閲覧できる地域振興センターや東園田会館、図書館等の市内 12 カ所で掲出しました。

(委員)

キューズモールでは、市制 100 周年ということで市民の皆さんからのご意見を付箋でいっぱい貼ってありました。その中で、子育てに関するご意見を多くの方がたくさん貼ってありましたので、関心は低いわけではないと思います。それらの付箋では、あれをして欲しい、これをして欲しいというご意見がたくさんあったので、もう少し吸い上げる方法があったのかなと思いました。

(部会長)

ありがとうございました。今の意見について、事務局から何かありますか。

(事務局)

市制 100 周年に関して、そうしたご意見をいただいているというのは、今後の市全体としての政策提言や事業構築に市民の生の声を何らかの形で反映するための検討材料になるかと思います。

ただ、パブリックコメントという手続きに関しては、様々な制約がありまして、そこは少し区別する必要があるかと思えます。しかしながら、せっかくいただいたご意見ですのでフィードバックされるような形で取組んでいきたいと考えています。

(部会長)

ありがとうございます。他のご意見はございませんか。

(委員)

2人のご意見として、市民の皆様に関心がない訳ではないというお話がありました。子ども・子育て支援新制度で保育所(園)や幼稚園の入所制度が変わりますよというフォーラムがありました。その時は、たくさん参加者がいらっしまったのでしょうか。西宮市の場合は、たくさん集まりました。先ほど、パブリックコメントの場合は色々と制約があるということでしたが、計画名はサブタイトルに表記して、市民の方が身近に感じられるようなテーマを主題にするといった工夫をするとか、多くの方が集まっているところに行って市民説明会を実施するというのは難しいのでしょうか。幼稚園や保育所(園)に入所できるかどうかという話になると親御さんも関心を持って出席されると思うのですが、理念的なテーマとなると、聞きたくても日常生活の中で優先順位が下がってしまうこととなります。本当にこの計画への意見を吸い上げたいということであれば、世代は様々で良いと思いますが、そういう方が集まっておられるような場所に出向いて意見を聞くというのもアイデアです。

また、もし他市が同じような市民説明会を実施されていて、尼崎市だけが参加数が少ないということであれば、それは何故かを考えた方が良いと思いました。

(部会長)

ありがとうございます。貴重なご意見をいただきました。最近、皆さんパブリックコメントに無関心ですよ。いかがですか。

(委員)

他市のケースですが、子ども・子育て支援事業計画の後に幼稚園や保育園をどのように統廃合していくかという計画についてのパブリックコメントを行ったところがありましたが、ものすごい数のパブリックコメントでした。やはり関心があるものとないものでは、パブリックコメントの件数がかなり違うというのが実感です。

(委員)

昨年度に子ども・子育て支援新制度のフォーラムに1度だけ参加しました。その時は30人前後くらいの方がいらっしまって、保育関係者の方と親御さんが集まっておられました。幼稚園に入所希望の方もいらっしまして、まず施設に入れるのか入れないのかというところからスタートの方もいましたし、制度の細かい内容をご質問された方もいて、様々でした。1度だけ参加しましたので、たまたま大盛況の回だったのかどうかは分かりかねますが、結構ご参加されていたと記憶しています。

(事務局)

フォーラムは教育総合センターで1回だけ開催したはずですが、満員になると300名くらいいらっしまったということになります。各地区で開催した市民説明会は、利用者負担に関する説明会です。これも各地区1回ずつ、平日の昼や夜、土曜日の日中だったと思います。私の記憶ですが、平均すると1カ所あたり30~40人くらい、少ないところで15~20人くらいでした。パブリックコメントについても、直近の2、3年の募集結果がどんなものだったかをざっと調べてみたのですが、テーマによってパブリックコメントそのものが0件というものもありました。ちなみに、子ども・子育て支援新制度の利用者負担に関してのパブリックコメントについては、確か600件弱くらいありました。子ども・子育て支援事業計画はその10分の1あったかどうかでしたので、

同じ時期に実施しても、テーマによってばらつきがあるというところです。

それから、先ほどのご提言ですが、先ほど申しました前回の次世代計画策定や子ども・子育て支援事業計画策定の際も一般市民向けの説明会は実施しておりません。平成 27 年度当初の子ども・子育て審議会で、計画策定に当たり出来る限り丁寧に進めていくようにとご意見をいただきましたので、初の試みとして今回は市民説明会を実施しました。多くの方にお聞きいただければ良かったのですが、我々としてもこのタイミングの中で、至らない点もあったものの、出来る限りやってみようということでした。今回のことも一つの教訓としまして、次回以降、計画改定等が先々ありますので、ノウハウとして活かせるようになればと思っています。

(部会長)

ありがとうございました。特に資料3のところでご意見はございませんでしょうか。これが最終答申案になります。お気づきのところはありますか。

(委員)

今まで気づかなかったのですが、73 ページの計画策定部会の委員名簿で副会長が私になっているので修正をお願いします。

(事務局)

大変失礼いたしました、申し訳ありません。すぐに修正いたします。

(委員)

23 ページの 不登校児童生徒の状況ですが、「平成 22 年度から平成 26 年度にかけて小学校では増加傾向、中学校では減少傾向」と書いています。確かに、22 年度からは減少傾向とは言えるのですが、平成 24 年度からだと増加傾向です。減少傾向と言い切ってしまうのはデータとしてはちょっとこじつけのような気がします。それに、中学校が減少傾向に見えません。むしろ平成 24 年度から増加してますので、この総括として記載するのは違うと思いました。

(委員)

そうすると、小学生も 26 年度は前年度よりも減少しているので増加傾向とは言えないということですね。

(委員)

そうですね。22 年度から比べたら少し減少していますが、24 年度からの直近 3 年では増加していますので減少傾向ではありません。データと記載内容があまり合っていないと思いました。

(委員)

少しずつ下がっていくのは減少傾向という言葉を使ってもいいのではないのでしょうか。

(委員)

せめて横ばいと記載すべきかと思います。

(委員)

「傾向」で良いのではないのでしょうか。専門的な用語ならば、どう記載するのでしょうか。22 年度と 26 年度と比べた場合、傾向ではなく小学校では増加してる、中学校では減少してるとなりますね。ただ、委員が気になっているのは中学校が 24 年度から増え続けていて、ひょっとしたら 27 年度、28 年度ともっと増えるのではないかということですか。

(委員)

そうです。減少傾向というには甘いと思います。

(部会長)

どのような表現をしたらいいのでしょうか。4 年間の小学校は結果としては増えているし、中学校は減っていると。

(委員)

表を見てくれとしかありません、「表のとおりです。」とか。

(部会長)

何か適切な表現はあるでしょうか。

(事務局)

ちなみに事務局の意図としては、どちらかというとな登校の出現状況が低年齢化しているという背景を意図に持っています。小学校で増えつつあるため、低年齢化しているのではということの後ろに含んだ表現にしております。

(部会長)

いずれにしても、全国より出現率が高いですね。

(事務局)

直近の平成 26 年度は高いという現状はあります。本市としての課題認識ということです。

(委員)

例えば、22 年度から 26 年度にかけて小学校では増加、中学校では減少していますが、全体的に低年齢化の傾向であると。今の話を聞いて、その趣旨を伝えたかったというのがよく分かりました。

(委員)

では、中学校では減少傾向であるという記述を削除したらいかがでしょうか。

(委員)

そうなると、小学校の 26 年度は減っているのに増加傾向という記述がちょっと引っかかります。ただ、22 年度から比べたら増えているというのを我々は言いたいわけですよ。中学校では 22 年から 26 年は全体的には減っているというのは、先ほどの話にあった不登校の低年齢化で、中学校から小学校に段々移っているということ言いたいのではありませんか。

(委員)

減少傾向とお聞きすると、「良くなった、改善した」というイメージが強いのですが、実際はそうではありません。

(委員)

でも、小学校が増加傾向だとすると、平成 26 年度は減っています。

(委員)

この減ったのは誤差の範囲だと思います。

(委員)

誤差ではなく、正確な数字です。

(委員)

データとしてはそうですが、増減について意味のある差なのかというのがありまして、「傾向」と言い切ってしまうて良いのでしょうか。

(委員)

最初から比べたら緩やかに低年齢化としているということではないですか。間が増えても最終的に下がっていれば傾向と捉えます。グラフというのはそういうものですよ。

(事務局)

数字に関しては、あくまで事実を客観的に並べております。ただ、低年齢化があるのではないかと思われるのですが、はっきり低年齢化している客観的な事象や根拠がないので、5 年間の推移を並べた事実だけを申し上げるという表現にしているつもりです。ただ、これは答申ですので、最終的な作成主体は子ども・子育て審議会になります。表現に関するご提案があれば、事務局としてそれに沿った形で修正します。

(委員)

書き方の問題だと思いますが、最終的には22年と26年を比べてということで、間の増減は読む人が見てくださということにして、22年度を100とした場合、小学校が何パーセント増えている、中学校は何パーセント減っているという表現にしたらいかがでしょうか。つまり、小学校は85から123ですから、123から85を引いた数を分子にして85で割る。中学校は449から426を引いた値を分子にして、426で割るという形です。

この全国の出現率は、全然違う指標だと思います。それぞれの22年度の数字を分母にした場合、小学校はかなり増えてますよね。中学校は少し減っているというのがよく分かると思いますが、いかがでしょうか。

(委員)

数字がたくさんになると困ってしまうので、「平成22年度から26年度にかけて」と、「小学校では」の間に、「上下の推移はありますが」と記載してみてもいかがでしょうか。

(委員)

それが一番素晴らしい表現だと思います。

(部会長)

全体の子どもの数がそれぞれ分からないから、件数だけでは話し合うと難しいですね。

(委員)

子どもの数よりは、不登校児童生徒の出現率ですので、小学校なら22年度は0.36で23年度は0.52、25年度は0.64ですが、最後の26年度は0.56と25年度から少し減ってますよね。中学校だと22年度は4.46から26年度で4.21となっています。先ほどおっしゃったように、22年度と26年度を比べたら小学校は増えていて、中学校は減っているという記述が分かりやすいのではないですか。その途中の年度は増えたり減ったりしているなとなりますよね。色々と言葉をつけると余計に難しくなるのではないのでしょうか。ただ、「傾向」でも悪くないと思います。

(委員)

「～にあります」というのはまだ継続しているイメージがあるので、例えば過去形にして「ありました」としたらどうですか。

(委員)

ちなみに、中学校は分かりませんが、小学校は27年度にまた増えています。28年度以降も増えていくかもしれません。

(部会長)

他に案はありますか。

(委員)

減少傾向というのがすごく引っかけたので、意見しました。27年度以降は分かりませんが、もし増えていた場合、減少傾向にあったが増加傾向に転じましたと書くのでしょうか。

(部会長)

ここには22年度から26年度にかけてと絞って書いていますので、読む人は22年度と26年度の数字を見るのではないかとは思いますがね。

(委員)

では、他の項目の様に折れ線グラフを載せたら、傾向が大体分かりますよね。

22年度以前は小学校ではもっと不登校児童生徒が少なく、中学校が多かったような気がします。だから減少傾向かなと思いました。ただ、小学校は確かに増えてきていますので、どうやって不登校を未然防止するかを今まで以上に取組んでいます。これを読んで、現場にいる者としては全然違和感はありません、このとおりだなと思います。実際の数字とそれぞれの学校の実態を

鑑みると、そのとおりだと思います。

(部会長)

不登校のところは22年度から26年度まで並んでいますが、その表のすぐ上の学力に関するグラフでは、19、25、26年度と間が空いています。これは、学力試験の実施時期が関係するのですか。

(事務局)

これは出典元の年度の取り方です。不登校児童生徒の出現状況はこちらで把握しているものですし、国勢調査の結果についても把握できますので、直近5年としております。学力につきましては、全国学力状況調査の結果報告がこのような形で示されておりました。従いまして、必ずしも年度の取り方が合致している訳ではありません。

(部会長)

5年分を並んでいるのが一番傾向が分かりやすいですね。極論すれば、24年度や25年度を省くときれいになりますが、そこまでしなくても委員がおっしゃったように、折れ線グラフを入れて、傾向を一目で分かるように配慮し、22年度から26年度を強調した上で増減の傾向がありますという表現にしていかがでしょうか。

(委員)

引っかけたのが、おそらく小学校だと不登校児童件数が85件から123件とパーセンテージにしたらかなりの増加傾向ですよ。一方で中学校では、449件から426件とあまり減っているとは言えません。

(委員)

ただ、これだけの数を減らすのに現場では労力を使いお金をかけて取組んでおり、とても頑張っています。1人減っただけでもすごく値打ちがあるような数字です。中学校だとたがだか23件の減少なのですが、何もしなかったらドンと件数が上がります。頑張っていることも分かっていたきたい。私たちからすると、減少傾向と言ってもらえればちょっと嬉しいのです。

(部会長)

19・20・21年度あたりのデータの推移がお分かりになる場合、それらをグラフに置き換えて顕著な結果が出るのであれば、それも入れてもらえますか。

(委員)

ただ、事務局がおっしゃられたように、言いたいことは小学校が増加し、中学校が減少しているといった低年齢化であったり、全国の出現率よりも尼崎市は高いといったことなので、21年度以前のデータを載せる必要はないと思います。

(部会長)

では、不登校の低年齢化や尼崎市が全国平均よりも高いことを記述しなくていいですか。

(委員)

全国の値を上回っているのは今の最終答申案に書いてあります。低年齢化については、事務局で検証が出来ていないということもあるかもしれないので、あえて記載する必要があるかは分かりません。

(部会長)

では、この表を折れ線グラフに変更することだけでよろしいですか。

(委員)

私はこのままで良いのですが、分かりやすくするならグラフをつけた方がいいかなと思います。

(部会長)

図と表の両方を載せる必要はないので、図だけでかまわないと思います。

(事務局)

分かりました。では、22年度から26年度については折れ線グラフで記載します。ただ、そうすると26年度の全国との比較はグラフには載らないので、全国よりも上回っていると書きたいのですが、折れ線グラフ上では表すことができません。

(委員)

他の年度の全国出現率のデータはないのですか。

(事務局)

私どもで持っているデータではありませんので、あるかどうかはこの場で確認できません。

(部会長)

ただ、全国のデータを加えて折れ線グラフを作成すると、小学校、中学校、全国と複数になりますし、それらに加えて、件数を棒グラフとして複合図を作成すると、分かりにくいですね。

(事務局)

部会長がおっしゃるとおり、複数本の5カ年の折れ線グラフだと交差するところも想定されますし、おそらく紙面上は白黒になりますので、線の種類を多少変えても、入り組んだものになると予想されます。

(委員)

何回も申し上げることになり恐縮ですが、これでいいのではないですか。私はこれで分かりやすいと思います。

(部会長)

このままで良いという案も出ましたが、いかがでしょうか。では、読む人たちは委員の思いも含みながら読むということによろしいですか。

(事務局)

承知しました。

(部会長)

ありがとうございます。その他、いかがでしょうか。どうぞ。

(委員)

少し疑問なのですが、27ページの「子育てに関する情報のうち、不足していると思うもので、子どもの遊び場について」というものが載っています。そして、パブリックコメントで寄せられた意見でも「遊び場が少ないため、外で遊ぶ子どもが少ないのではないかとあったのですが、最初の事務局の説明だと、こどもクラブや青少年センター等で対応できているという説明だったと思いますが、この「遊び場」というのは、なんとなく公園なのではないかと感じました。私も子どもを遊ばせようと思った時に、青少年センターではなく公園へ行きます。小学生も公園に行きます。だから、公園の整備が少し足りないのではないのでしょうか。施設ももちろん大事ですが、そちらも必要なのではないかと、この数字から思いました。何をどうしろという訳ではないのですが。

(事務局)

尼崎市には公園やこども広場、緑地があるのですが、数としては圧倒的に多いのが特徴です。ただ、いわゆる都市公園法に基づく都市公園は、最低2,500平方メートル以上の面積が必要ですが、尼崎市は2,500平方メートルを超えるところはあまりありません。数は多くても小さいのです。先ほどの話からは少しずれますが、本市は工業地帯で公害のまちというイメージが強い中で、少しでも緑地面積を広げていこうということで、整備を進めてきた経緯があります。小さいところでも、少しでも多ければということで緑地や広場を整備してきた経緯があるので、数は多くても1カ所あたりの面積がかなり小さいという現状です。

また、公園についても、一般的には子どもがボールを使って遊んだり広々と遊べるというところですが、公園法も一部改正されまして、公園の位置づけが高齢者の方の健康増進であったり市民一般のコミュニティの醸成の場でもあるということで、子どもの遊び場という趣旨が薄まってきています。また、公園設置の条例の中では、他の人の迷惑になる行為をしないことという、ざくとした決め方ではありますが、公園の面積が狭いという実情もあるので公園によっては地域でボール遊びを禁止しようというところもあります。本市に管理者として看板を出してくれというような市民の方からの要望があって、禁止の看板を出している公園もあります。確かに、広場という一番イメージされるのは、遊具で遊んだりというのが大きいと思いますが、そうした事情もあって「公園」というのは表現から外させてもらっています。

冒頭の説明で誤解を与えた部分は申し訳ありませんが、こどもクラブ等で対応しているから十分だというスタンスではなくて、本市の特徴として、全ての公立小学校には児童ホームとこどもクラブがあり、その中で遊べますし、青少年センターという場所があることを前提に、ここを利用していただくような周知などをしていきたいということです。これだけあるから、もう十分だという訳ではありませんので、誤解を招いた表現であれば訂正させていただきます。

(部会長)

ありがとうございます。他はいかがでしょうか。

(委員)

レイアウトの問題だけですが、64と65ページの表が分かりやすくとても気に入っています。せっかくならもう少し頑張っていたらと思うのですが、乱視がきついとちょっと見えにくいので、順番に網掛けしてもらおうか何か工夫していただけると、見やすくなるのかなと思いました。私自身で作りたいたいと思ったくらいです。ブロックごとに網掛けしてもらおうと、列が見やすくなりませんか。

(事務局)

施策単位で横に一段ずつ網掛けをしたり抜いたりというイメージでしょうか。

(委員)

見やすくなればどんな感じでもいいのです。事務局の方に工夫していただければと思います。このままでも大丈夫なのですが、せっかくだいい表をつくられたので、ちょっと見やすくなるだけで、またどこかで活用できるかなと思いました。

(事務局)

文字のフォントは最大A3幅なので、字の大きさをこれ以上変えることは出来ません。おっしゃるようにブロックごとに色を分けるとかは、私自身が美的センスがあまりないもので、塗り方や分け方を1・2パターンつくってみますのでご覧いただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(委員)

私でいいのでしょうか。部会長一任でお願いします。

(部会長)

2・3パターンを作成いただき、委員にチェックしていただきましょう。それでは、それ以外については特に追記や修正はありませんでしたので、事務局案の表を修正し、最終答申案に反映したいと思います。それでよろしいでしょうか。

(委員)

はい。

(部会長)

ありがとうございます。それでは、この資料は終わりましたが、前回の部会で宿題とされてお

りましたが、新たな次世代計画の愛称を決めたいと思います。ちなみに、今の計画が「わいわいキッズプランあまがさき」という名称です。この由来については、皆さんご存じだと思いますが、幅広いという意味の Wide の「わい」と、賢明なという Wise の「わい」を掛け合わせてつくられています。幅広い人たちが幅広い知識で、行政も市民も賢明に、明るく楽しく子どものために尽くしてほしいという願いを込めて、当時の市民委員からの提案で、この「わいわいキッズプランあまがさき」という名称が出来たわけです。

この度の次世代育成支援対策推進行動計画の名称をどうするのか、継続するのか変えるのかというところが宿題となっていました。どなたからでもどうぞ。委員、お願いします。

(委員)

私はこのままで良いと思っています。

(部会長)

このまま良いという方以外はいらっしゃいますか。

(委員)

私もこのままで良いと思います。「わいわい」というのが先ほどの意味と、賑やかな「わいわい」という感じがして、尼崎らしいと思います。これを変えないといけないのか、なぜ宿題が出たのかを考えていたのですが、継続しても良いのですね。私は、これでお願ひしたいです。

(部会長)

現計画から計画が変わったという意味で、どうしましょうということです。

(委員)

本当にこの名称をよく考えてくれました。良いと思います。

(部会長)

他にはいかがですか。特に尼崎市民の方はいかがでしょうか。

(委員)

私もこのままでいいと思います。

(部会長)

では、「わいわいキッズプランあまがさき」を継続するという事で、そのまま踏襲いたします。

(委員)

変わったということをアピールしないといけないのですか。

(部会長)

そんなことはないです。後ろに何かを入れるという案もあります。

(委員)

名称はそのままセカンドバージョンというのが分かるようにするのはいかがですか。

(部会長)

セカンドバージョンでもないのです。

(委員)

では、そのまま良いと思います。

(部会長)

事務局、セカンドバージョンではないですね。

(事務局)

部会長からも先ほどございましたが、今回、皆さんに方向性を決めていただきたいという視点というのが、この計画も節目なので名称を変更するとなるのか、尼崎市の子どもに係る計画としての浸透度を図るのであれば、「わいわいキッズプランあまがさき」をコロコロとそんなに変える

ものではないのではないとか、そのような内容を審議会として最終確認いただければということで、お願いした次第です。

(部会長)

計画に愛称を付けている自治体もそうでない自治体もありますので、みなさんのご意見を頂戴しまして、「わいわいキッズプランあまがさき」という過去の名前をそのまま踏襲させていただくということにしたいと思います。ありがとうございました。

それでは、長い間たくさんご審議いただきましたが、今回をもちまして、この部会における全ての審議が終わりました。最終答申案に至るまで、たくさんのご意見や時間を頂戴いたしまして、本当にありがとうございました。心よりお礼を申し上げます。

この1年間、色々と言いながら、たくさん資料を読みながら審議をしてみましたが、いかがでしたか。

(委員)

ありがとうございました。私が思うようなことと、皆さんが論議して欲しいと思っていることにズレがあるだろうと思いつつ、色々な意見を述べさせてもらいました。一市民として色々勉強できて、知ることが出来て良かったです。一方で、自分の考えをこの審議会で申し上げて伝わらないならば、どこにお伝えすれば良いのかと無力感も多少感じたこともありましたが、とても学びの場となりました。ありがとうございました。

(委員)

毎回、細かいことで意見を述べさせられました。思っていることを言えたので良かったかなと思います。今後も尼崎市で子育てを続けていくにあたって、尼崎市の現状等をデータで拝見できましたので、検討材料にはなるかなと思いました。今よりもさらに良い尼崎市になればと思い、審議会に参加してきましたが、果たして1年前と変わったのか、今後も変わるのかなと疑問に思うところもあるものの、PDCAサイクルがうまく回れば良いなと思います。同じところをぐるぐる回るのは意味がないので、ちゃんと上を向いて回っていけば、尼崎市での子育ても安心して出来るかなと思いました。ありがとうございました。

(部会長)

ありがとうございました。今、事務局にしっかり聞いていただきましたので、きっと上手くいくと思います。

(委員)

1年間、本当にありがとうございました。実際に子どもが直面している様々な問題もたくさん資料として拝見いたしました。この計画はページ数が多いので、事務局は本当に大変だったと思います。1年間本当にご苦労様でした。ただ、やはり子どもが本当に安心して遊べたり活動できる場所が必要だなと感じました。身近なところで様々な事件がたくさんありますので、私も子ども会の役員として、事故や怪我のないようにこれからも活動していきたいと思っています。本当に1年間、ありがとうございました。

(委員)

1年間、ありがとうございました。子ども・子育て支援新制度が始まったため、子育てサークルの中でも、「1号認定はこの施設に入所できるのか」とか、「この幼稚園どうなのですか」といった問い合わせがすごく多かったのですが、審議会員としてこの場に参加しているからこそ、お母さんたちにご返答することが出来ました。しかしながら、裏を返せば、子ども・子育て支援新制度の内容が市民の方に伝わってないということです。あまりよく分からないまま幼稚園に入所を決めて、実際に入所してみると違ったというお母さんもいらっしゃいました。フォーラムも実施されていましたが、1対1で対応するぐらいに手厚くしてあげた方が良かったのかなと思いま

した。

それに、こんな施設があるのかと知ること多かったので、一市民として生活していたらきっと知り得ない情報もありました。情報を取りやすい環境や状況をつくれば、もっと尼崎市に転入してくる人も増えるかと思います。パブリックコメントについても、施設に案内を貼ったとおっしゃっていましたが、地域振興センターといった役所の施設に行くことはあまりありませんので、普段生活していて目に付くところに貼った方が良いかなと思いました。堅苦しいフレーズではなく、もっと誰でも来てくださいというニュアンスが伝わるフレーズにした方が、もう少し関心を持って来てくれるかなと思いました。ありがとうございました。

(委員)

1年間どうもありがとうございました。去年の6月から途中加入させてもらったということで、右も左も分からない状況での審議会でした。そういった中で、とんちんかんなことを申し上げたこともあったかもしれませんが、私自身としては良い勉強になったと思っています。こうしたことを知ることで、自分自身を知るということもあります。今度ここで知り得たこと、あるいは市報等に掲載させていただいていますが、これをどうやってPTAの会員に伝えていくことができるのかなというのが私の今後の課題だと思っています。その課題に邁進していきたいと思っています。どうもありがとうございました。

(委員)

1年間ありがとうございました。普段は幼稚園の先生や保育士になる学生を相手に、教育・保育の内容や、どのように育てたいのか、育てるためにどうすればいいのかを授業で担当していますが、この会議に出席させていただくにあたって、いかに自分の視野が狭かったかということに気づかされたり、もっと広い視点から子どもの育ちを考えていかなければならないとたくさん気づかせてもらいました。また、今回の会議の中で私がちょっとだけこだわったのは、いかに就学前の教育と小学校の教育をつなぐのかということです。その意見もご配慮いただいて盛り込まれているようですので、私としては嬉しかったです。どうもありがとうございました。

(委員)

火曜日の都合がつかず、欠席が多くて申し訳ありませんでした。ただ、回数は少なかったものの、この会議に参加して特に感じたのは、市民代表のお二人の意見を聞いていて、本当に市民の方の意見のレベルが高いという失礼な言い方ですが、先ほどの数字の話も計算されているんだと、すごいと思いました。こういう文言を入れてはどうかという表現の仕方等もありました。就学前の子ども親御さん代表として来られていると思いますが、市民の方はそれぞれの生活や仕事の中で発揮されている力があって、そういう色々な力を借りながら子どもたちを育てていく、そのための計画をここでつくっていくんだと、お二人の意見から改めて学ばせてもらえたと思っています。そういうことを尼崎市が大事にしているからこそ、お二人から幅のある色々な意見を出してもらえたのかなと思っています。

また、それぞれの親御さんにもう少し寄り添った対応をとという話がありました。やはり、行政自身は行政の視野で捉えがちだと思いますが、もう少し市民の方が日常生活を営まれている場に入り込んで広報していただくと、もう少し伝わりやすいのかなと思います。ただ、尼崎市全体として、こういう取組みを積極的にされていることは事実だと思いますので、市民の方も、またこれからはぜひお力をお貸しいただけたらと思います。ありがとうございました。

(委員)

私は特別委員で参加させてもらいましたが、欠席したこともあって、ずっと継続的に参加できませんでした。ちゃんとした意見を申し上げられず申し訳ないと思っています。

先ほどおっしゃられたライフステージ表を拝見した時に、施策の整理の仕方がすごく魅力的に感じました。余所で教材に使用させていただいても良いかを事務局に確認したぐらいです。こういうところに事務局の有能さ、能力が表れていると思います。私からのアドバイスが少なかったもので、逆に少し悔しかったと思っています。本当に短い間でしたがお世話になりました。

（委員）

私も特別委員として参加させてもらいましたが、すごく勉強させてもらったと思っています。平成9年頃から7年間、尼崎市でスクールカウンセラーを務めたり、その後に夜間の高校にも参加していましたが、改めて全体の施策を俯瞰させていただくことで全体を把握することができ、大変失礼ながら感心させていただいた次第です。

普段は、医療の現場で色んな方と会うことが多く、尼崎市の市民の方と会うこともありますので、現在されている対応や制度を広めていきたいなと思います。皆さんがおっしゃっていましたが、せっかくここまでの素晴らしいものをつくっておられるのに、不満や不平をおっしゃる方が一方でいらっしゃいますが、このような取組みをご存じないからだだと思います。もったいないと思いますので、今あることをどうやってしっかり浸透させるか、また私も色んなところで伝えていきたいと思いますので、ないものねだりだけではなく、あるものをしっかり確認していく作業がとても大事だと感じました。ありがとうございました。

（委員）

皆さん、どうもありがとうございました。私は結構出席率が高かったです。私が出席していなければ会議が成立しなかったというのが、何回かあったのかと思います。レベルが高い保護者のお二人に反対意見を色々言ったのは、ちょっと恥ずかしいなと思いながら反省しています。

尼崎市が市制100周年ということで、学校でこんな話をしています。子どもたちに100年後どうなっているかな、100年経っても変わっていないものが何か分かったら校長室においでと言ったら、何人か来て、色々言ってくれました。月並みな答えかもしれませんが、「優しい心」であったり、「青い空や地球は変わっていない」「みんなの思いやり」とか嬉しいことを言ってくれるのです。子どもたちが言ったことを校長室の前に書いています。結構良い子が育ってきているなど自己満足していますが、まんざら子どもたちも捨てたものではなくて、スクスクと育ってくれたらと思っています。私も思ったのですが、100年後どうなっているか。今、私が直面している小学生の6歳～12歳までの子の中には、何人かは高齢者として生きているはずですので、きっと今、我々がしていることの結末を見てくれる。尼崎市民が尼崎市をどのように愛して、どうやって頑張ったかを見てくれる証言者になるかと思っています。100年後が楽しみだと思いながら、次世代育成支援対策推進行動計画の策定作業をとおして、何十年も先を見据えて子どもを育てていかないといけないと、学ばせてもらいました。

最後になりますが事務局の皆さん、本当にありがとうございました。こうした案を考えていただいて、私たちが好き勝手言ったことを次の会議に出していただきました。先ほどのグラフとか、勝手なことばかり言いましたが、事務局の方が陰でしてくださったことで、こういうのが出来ていると学びました。部会長、本当にありがとうございました。こんな会をよくまとめているなど、素晴らしいと思っています。併せまして皆さん、どうもありがとうございました。

（委員）

本当に1年間、ありがとうございました。子ども・子育て審議会の全体会は何年か前から参加させていただいております。今年は計画策定部会に参加させてもらって、施策というのはこのように出来ているのかを目の当たりにして、本当にとても勉強になりました。私が現場で見ているものを少しでも活用していただけたらと、意見を言えたらいいなと思い、出席させていただきました。

行政の肩を持つ訳ではありませんが、尼崎市は本当に色々な事をしていると思います。市民サービスの観点から申し上げますと、色々なことをやりすぎていて市民に伝わっていない。公共の場所が多いというのは市民サービスにつながる一方で、結局まとまらず、バラバラになっているということがあるのではないかと思います。でも、それは行政の責任ではなくて、地域の責任だと思います。それを育てていく、支えていくというのは、市民一人ひとりが担うところだと思います。

市民委員の方は子どもが小さいのに、この遅い時間まで会議に参加されていて本当に頭が下がりました。私が若い頃には恐らくできなかったと思います。色々勉強させていただいて、私自身のこれからの糧にしていきたいと思います。ありがとうございました。

(部会長)

委員の皆様、ありがとうございました。恐らく私は一番年上なので部会長を頼まれたのですが、会議が中弛みしたり、至らなかったところもあったと思います。お許してください。でも、皆さんにご参加いただき、一人ひとりがそれぞれの立場で貴重な意見をいただいたというのが、とても私の励みになりましたし、嬉しかったです。ほとんどの自治体は夜に会議をするなんてことはまずありませんし、関係課の課長の皆さんが毎回来てくださっていましたので、貴重な会議が出来たと思います。さらに子ども・子育て支援新制度が始まった中での新しい審議会でしたので、事務局も私も試しつつというところがあったかもしれませんが、貴重な第一歩を踏み出せたのではないかと思います。本当に心からお礼を申し上げます。ありがとうございました。皆さんの思いがうまく市民の方に通じたらとても嬉しいと思います。それでは、事務局から今後の連絡をお願いします。

2 その他

次回の日程等の事務連絡

閉会

以 上